



本山 遥

2018年卒業
関西学院大学 商学部卒業
フジアーノ岡山 26番

私を救った聖書の言葉

私は現在フジアーノ岡山というJリーグのチームで、プロサッカー選手としてプレーしています。私がプロサッカー選手になるまでの道のりで最もうまくいかなかったのが、高校での3年間でした。当時はヴィッセル神戸の育成組織に所属していましたが、最終学年になっても試合に出られない日々を多く過ごしたからです。

啓明学院は「チャレンジ精神」を大切にしている高校です。私がかうまくいかなかった要因の一つがこのチャレンジ精神に欠けていたことです。ミスを恐れ消極的なプレーに終始し、自分の得意なことすら得意ではなくなっていき、そんな悪循環に陥っていました。私がかこの悪循環から抜け出せたことの一つに、啓明学院での学びがありました。

特に私は聖書の言葉に助けられました。啓明学院では毎日礼拝の時間があり、聖書の言葉に触れる機会が非常に多くあります。私はローマの信徒への手紙5章3節～4節「そればかりでなく、苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということ」という言葉に出会い、この考えを大切にしていこうと少しずつ悪循環から抜け出していき、試合に出場できるようになっていきました。

その後の大学生活やプロとなった今でもこの言葉はととても大切にしています。大学時代に腰を怪我して長期の離脱となってしまった時も、この苦難は自分を成長させてくれるものだと捉え、その期間に自分をもう一度鍛え直すことができました。これからも多くの苦難にぶつかるとは思いますが、どんな時もこの言葉を忘れず生きていきたいと思っています。

啓明学院には本当に多くの学びがあり、何気ない日常にも自分が成長できるチャンスが転がっています。そのチャンスを拾うかどうかは自分次第です。誰にでもうまくいかないときはあります。部活や勉強、人間関係、進路のことなど誰もが悩み苦しむと思いますが、啓明学院で得られる何かを解決してくれるはずですよ。だから毎日を大切に何気ない何かを見逃さないように、啓明学院での日々を一杯チャレンジしてください。



石原 華

2021年卒業
関西学院大学 社会学部

啓明学院の門をたたいてください

今、啓明学院の門を目の前にしたあなたに、卒業生である私が門をたたいた先の景色を少しお見せしようと思います。放課後の教室を覗いてみると、生徒が教室で勉強を教え合っている様子を見ることができます。グラウンドからは掛け声が聞こえてきます。

啓明学院は個性を認め合い、助け合い、切磋琢磨しながら各々が輝ける場所です。そのため、啓明学院が大切にしているチャレンジも生徒によって異なります。それぞれのタレントによって、輝けるところが異なるからです。私は中学次に10 kmのマラソン大会で入賞するため、毎日の駆け足に力を入れました。結果、メダルを掴み取ったことは今でも自信に繋がっています。高校次には学年問わず仲間を集め、楽器を全校生徒の前で披露することに

毎年挑戦しました。用意されていなくても、やってみようと思ったことは自分でどんどん切り開いていけばいいのです。全てがかうまくいったわけではありませんが、失敗から学ぶことは多く、私の人生の財産になったと自信を持って言えます。

私は現在、関西学院大学において学部の学びだけでなく、ハンズオン・ラーニングプログラムやカナダへの留学など、多くの学びを得ています。「勉強させられる」のではなく、心から「学ぶことが楽しい」と、啓明学院で思えたことが私の人生を豊かにしていると日々感じています。教科書にとらわれないリベラルアーツ教育は私の好奇心を刺激し、様々な国際交流プログラムは私を世界へと導いてくれました。また、論文作成やICT教育を十分に受けたことが大学で躊躇せず学べている理由のひとつです。それぞれが自分のやりたいことを見つけ、貪欲にチャレンジしていく。それを大きな愛で受け止め、応援してくれる先生や友人がいます。あなたが決めた道を、誰かが邪魔することはありません。私は啓明学院で共に泣き、共に喜ぶ生涯の仲間を得ました。これからの人生の基盤となる貴重な学生時代。自分の足で立ち、自分の頭で「どう生きるのか」を考え選択していく時期に、啓明学院で過ごせたことは私にとって非常に大きな意味を持っています。まずは啓明学院の門をたたいてみてください。門の先には多くの可能性が広がっています。



渡邊 真珠

2021年卒業
Brandeis University

身についた思考力と根性

私は大学に入学する前に学部が未定だったため、一回生の時にいくつかの分野の授業を試して、自分の興味ある科目を決めることにしました。そのため、私は1年の間に国際関係、生物、人類学、プログラミングと数学を取りました。それらの科目を勉強するうちに啓明学院で身についた思考力と根性の重要性を改めて知りました。高校までの勉強と違って、大学での勉強はさらに理解力、分析力と論述力が試されます。啓明学院はそれらの能力を気づかない間に強く磨いてくれました。初めてアメリカの大学に入って、私は挫折感を味わうことが何回もありましたが、やはり諦めたことはありませんでした。私はその理由が中学3年間の駆け足と啓明マラソンだと思います。私はどんな困難にあっても、「あと少し」と思えたら続けることができます。それが実は啓明学院で身についたものなのです。

この1年の間、私は啓明学院でいつも強調されていたChance, Change, Challengeを忘れたことはありません。私は今学期の間に、ハーバード大学とカリフォルニア大学の模擬国連の弁論に参加しました。そして、奉仕する精神も常に心に留めて、障害を持つ子どもを支える学校ボランティア組織の一員になりました。また、大学の留学生向けのオリエンテーションリーダーを担当しています。私は勇気を持って、積極的にチャンスをつかんで、チャレンジをして、自分の生き方を見つけたいと思います。

私はいつも自分が幸運に恵まれている人間だと思っています。家族と啓明学院の先生から沢山の支持をいただき、私はアメリカに留学することができました。そして、大学の友達や寮のルームメイトから影響を受けて、今まで考えたこともない学科を勉強することができました。さらに、私は色々な国から来た、様々なバックグラウンドを持つ優秀な人達と交わり、より広い世界と多様な可能性や生き方を知って、夢を持つ大切さを心から感じました。私は感謝の気持ちと自分の夢を常に持ち続けながら、新たな目標と未知な未来へ向かって歩んでいきます。



深川 颯斗

2021年卒業
関西学院大学 経済学部

チャレンジ精神を育むのに最適な環境

啓明学院は「チャレンジ精神」をととても大切にしている学校です。僕自身も啓明学院で過ごした3年間で様々なチャレンジをしてきました。その中で最も自己の成長に繋がったのは、各種委員会活動です。生徒会役員会や文化祭実行員会など複数の委員会に所属し、校則の変更や新たなイベントの作成などのチャレンジをしました。特に高校3年生のときは新型コロナウイルスの影響で多くのことが例年通りにはできなくなってしまい、コロナ禍でもできる学校行事を一から考えることになりました。なかなか企画が通らず、何度も企画書を書き直したことを覚えています。当時はとても大変でしたがそれらの経験は大学生になった今でも確実に生かされていると思います。

同じ目標を持って助け合うことができる仲間たちや生徒のチャレンジの後押ししてくれる先生方がいてくれたので、コロナ禍でも文化祭を実現できました。これは啓明学院だからこそできたことだと思っています。啓明学院ではチャレンジしようとする姿勢を笑われたり、否定されたりすることはありません。先生も生徒も常にチャレンジする人の味方でいてくれます。

大学は高校までと違って自分からやることを見つけなければなりません。受ける授業を自分で決めることに始まり、部活やサークルも自分から話を聞きに行く必要があります。大学で行われる資格のテストなども自分で調べる必要があります。僕は一回生の間に自分で調べてNPO法人にインターンに行きました。正直、一回生でインターンというのは早い気がしましたが、参加するかとても悩みました。しかし、啓明学院で学んだチャレンジ精神を思い出し、思い切って参加することを決めました。結果として、インターンに参加することで多くの経験を得ることができたので参加してよかったと思っています。興味があっても挑戦するか悩んでしまうことはよくあることです。しかし、そこで一歩踏み出すことがとても大事です。啓明学院はそのようなチャレンジ精神を育むのに最適な環境だったと思います。



千原 寧々
2022年卒業
国際基督教大学 教養学部
アーツ・サイエンス学科

小さな幸せに気づく力を学んだ

私は啓明学院で「感謝」の大切さを学びました。きっかけは中学2年の青島キャンプです。このキャンプは、便利な日常生活から離れて日常の有難みを知ることが目的です。自力で火を起こし、1分間だけのシャワーを浴びるなど、すべてが新鮮で興味深いものでした。振り返ると、中学2年の若さと元気で乗り越えられたのだと思います。楽しいと思う反面、毎日こんな風に生活している人もいるのかもしれないと思い、複雑な気持ちになったことを覚えています。

私が感謝の気持ちを発揮するのは普段の生活です。朝、何事もなく起きられたこと、おいしいご飯が食べられること、啓明学院で6年間を過ごせたこと、日本に生まれたこと……。日常の些細なことに感謝できる広い心を持つと、今私たちが置かれている環境がいかに幸せ

であるかが見えてきます。

もう一つは、「私は恵まれているな、幸せだな」と声に出すことです。ないものねだりする狭い考え方より、日常の小さな幸せを見つけ出そうとすると、毎日沢山のものに守られて生活をしていることに気づきます。近年ではコロナ禍で学校行事の中止や変更が相次ぎました。「コロナのせいで何もできなくなってしまった」ではなく、今だからこそできることを模索し、「変えられないこと」ではなく「変えられること」に焦点を当ててみる。このような前向きな考え方も啓明学院で学んだことのひとつです。

啓明学院ではチャレンジの場が多く設けられています。先生方もチャレンジという言葉をよく使います。私は今になってその理由が分かった気がします。チャレンジすることがいかに魅力的な行動であるか、チャレンジすると必ず得られるものがあることを知ったからです。私は今、自分と異なる人たちと関わるために安全地帯から抜け出し、東京という新たな場所で学びを深めています。私も皆さんと同じくチャレンジの真ただ中です。沢山のチャレンジの機会が与えられる啓明学院で、感謝の心を持ちながら積極的にチャレンジし、学び続ける、そんな学生生活を送ってほしいと思っています。



碓武 慶之
2022年卒業
関西学院大学 商学部

挑戦なき成長はない

私の高校生活は常にコロナウイルスの影響と共にありました。文化祭や体育祭などの学校行事はいつも通り行えず、楽しみにしていた修学旅行もなくなりました。しかし、卒業して改めて高校生活を振り返ると、確かにコロナウイルスの影響により悲しい思いもしましたが、有意義な時間を過ごすことができたことと断言することができます。それは私たちが挑戦する大切さを啓明学院で学び、実行してきたからです。多くの啓明生が啓明学院の特徴を聞かれたとき、チャレンジを大切にしている学校だと答えます。私自身も啓明学院が大切にしている礼拝で、自分を成長させるには聖書の言葉にあるように広い門ではなく狭い門を選ぶ、つまり、楽な道のりではなく辛く険しい道のりを歩むことが大切だと学ばせてもらいました。

私にとって一番の挑戦は、アメリカンフットボール部で主将を務めることでした。アメリカンフットボール部は毎年日本一を目標に掲げ、70人を超える部員がいます。その大きな組織をまとめる責任を担うことはとても覚悟のいることでした。私の覚悟の背中を押してくれたのが、啓明学院で学んだチャレンジ精神と狭い門を選ぶということでした。主将を務めた1年間は本当に辛く険しいものでしたが、挑戦してよかったと最後には心から思えました。大きな組織を運営していく方法や、信頼関係を築くことの大切さを学び、常に部員の手本であろうと勉学にも励むことができました。結果として、日本一になることは叶いませんでしたが、兵庫県優勝、関西2位という結果を残せたことは大きな自信となっています。

私はこの経験から、迷ったときは必ず楽な道ではなく険しい道のりを選ぶことを大切にしようと決めています。挑戦せず、楽な道つまり広い門を選べば、挫折することも辛い思いをすることもなく、楽な生活を送ることができるでしょう。しかし、そこには成長のチャンスはなく、高校生活という貴重な時間を無駄にしまうかもしれません。

あつという間に過ぎる大切な高校3年間を価値あるものにするために、多くの成長の場が設けられている啓明学院で、皆さんが狭い門を選び、チャンスを掴み取ることを願っています。

学校と家庭の信頼関係を深めています。

啓明学院の教育は、生徒・教師・家庭の三者の協力と信頼関係の上に成り立っています。

育友会は学期ごとの集会のほか、バザーや体育祭、文化祭、キャンプなどの学校行事にも積極的にご協力いただいています。「聖書に親しむ会」、「ガーデニング委員会」、「国際交流委員会」、保護者コーラス「カント・フェリーチェ」などの活動も盛んです。

同窓会の金星会も、母校の発展に期待し、熱い視線を注いでこられました。後輩たちのために土曜講座の講師を引き受けたり、募金活動も推進。毎年多くの金銭的な援助とともに、生徒の諸活動をご支援いただいています。

卒業生の保護者の集い「校友会」も発足しました。保護者同士にも連帯感、親近感、同窓意識が生まれ、啓明学院の教育を将来にわたり物心両面でサポートしていただいています。



卒業生の保護者も参加される「カント・フェリーチェ」。10周年記念コンサートにて

105歳で天に召された日野原重明先生は「啓明のことも母校のように思っている」と語られています。



啓明学院での記念講演で「勇気ある行動を」と啓明生に呼びかける日野原先生

日野原先生のお父様は関西学院で学ばれた後、神戸栄光教会の牧師や広島女学院の院長を務められました。日野原先生もランパス記念幼稚園から関西学院中学部を卒業して医学の道に進まれました。ランパスファミリーにもゆかりの深い方です。

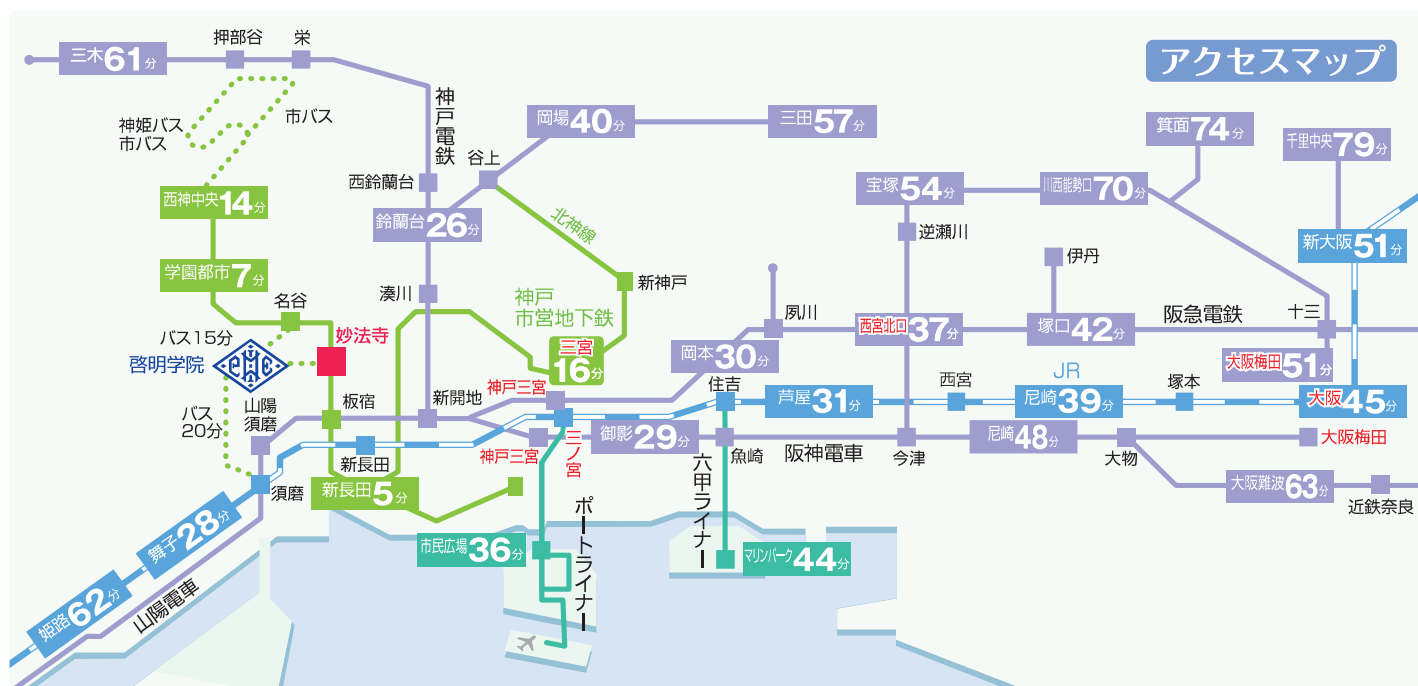
教育振興募金のお願い

入学後、教育施設・設備や内容の充実、奨学金制度の拡充などを目標として、20万円以上の募金をお願いしております。

*啓明学院が公益法人として免税措置の領収書を発行します。

奨学金制度

啓明学院では、高校生のための公的奨学金のほかに、本校独自の奨学金制度を設けています。担任を通じて校長にご相談ください。



- 交通案内
- 徒歩
 - バス (.....印) 「啓明学院前」下車
 - 地下鉄「妙法寺」駅より約12分
 - 地下鉄「妙法寺」駅前発(75系統・73系統など) 所要時間約3分。5~10分間隔で出ています。
 - 「須磨駅前」発(75系統・71系統) 所要時間約20分。5~10分間隔で出ています。国道2号線沿い山陽電車「須磨駅」東50mにバス停があります。